

害虫編

注意が必要な害虫とは!?

①新芽や葉に群生するアブラムシ類

葉裏に体長1〜2mmで、黄色または黒緑色のワタアブラムシ、淡緑色または桃色のモモアカアブラムシなどが4〜6月に発生します。

アブラムシは、新芽や葉に群生して吸汁するので、新芽は次々に縮れて団子状になり、排泄物により葉が黒く汚れます。発生が多い場合は、花や幼果にも発生してしまいます。また、モザイク病(CMV)を伝染します。

アブラムシの飛来を防ぐため、育



ワタアブラムシ



ワタアブラムシの被害

(木村 裕 原図)



ウリハムシ



ウリハムシの被害

(木村 裕 原図)



ハモグリバエ被害

(木村 裕 原図)



ウリキンウワバ

(木村 裕 原図)

苗中や定植後には防虫ネットを被せることが重要で、畝面をシルバーマルチで被覆するのも効果的です。定植時にモスピラン粒剤、ダントツ粒剤、スタークル粒剤、アルバリン粒剤などを施用すると、1カ月ほど効果が持続します。多発時にはダントツ水溶剤、スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤などをていねいに散布します。

②ウリハムシは果実も食害して傷をつける

別名「ウリバエ」とも呼ばれます。体長1cmほどの黄色の成虫が飛び回り、直径1〜2cmの円を描くように葉を食べます。発生が多いと果実表面も浅く食害し、褐色の傷がたくさ

ほどの黄白色のウジムシで、地下茎や根に食入します。食害が進むと株が日中しおれるようになり、枯死する場合もあります。成虫は見つけ次第捕殺しましょう。発生が見られたら、マラソン乳剤などを散布します。

③ハモグリバエ類は別名「エカキムシ」

体長1〜2mmの黄色のウジムシが葉の中を食い進み、その痕が白い筋になるので「エカキムシ」とも呼ばれます。成虫は2mmの小さなハエで、トマトハモグリバエ、マメハモグリバエ、ナスハモグリバエなどが発生します。

寄生バチなど土着天敵がよく働くので、天敵に影響の少ない薬剤を選

④シヤクトリムシのように動くウリキンウワバ

成虫は翅の開張20mmになる暗灰色の蛾です。幼虫は大きくなると体長40mm、淡緑色で胴部の側面に太く明瞭な白帯があり、シヤクトリムシのような歩き方で歩行します。若齢幼虫は、葉裏から葉芯部を薄く食害し、幼虫は大きくなると葉脈を切断します。また、幼果を加害することもあります。6月以降が多く発生する時期です。

登録薬剤はないので、発生が見られたら幼虫を捕殺します。

※文中で紹介している農薬は、タキイでは取り扱いのないものもございます。ご了承ください。また、農薬をご使用の際は必ず登録の有無や使用方法をご確認ください(編集部)。

カボチャは、排水を良好にした圃場に、ポリマルチをして十分灌水した後、苗を定植します。カボチャは比較的病気に強く、マルチ栽培することで疫病やつる枯病の発生も防止できます。また害虫では、アブラムシは早めに防除してモザイク病の感染を防ぎます。

病害編

注意する病気と対策

①モザイク病はアブラムシの防除を徹底

アブラムシによって媒介される、キユウリモザイクウイルスやカボチャモザイクウイルスの感染で発生し、アブラムシの発生が多いと被害が増加します。被害が発生すると、カボチャの葉が緑の濃淡の混じったモザイク症状を呈します。また、果実が奇形になり、生育も悪くなります。キユウリなどウリ科にモザイク病が発生していると、カボチャに伝染するので注意しましょう。

アブラムシの防除を徹底するか、アブラムシの飛来を寒冷紗で被覆することや、シルバーポリマルチによる光反射で飛来を防止することで被害を防ぎます。

②発生すると被害が大きいカボチャ疫病

梅雨または秋雨時に被害発生が見られます。茎葉、果実に被害が発生し、果実が侵されることが多く、発生すると大きな被害になります。葉では円形で水浸状の病斑ができ、の

ちに乾燥して褐色の病斑ができます。排水の悪いところでは、茎が暗褐色水浸状になり、くびれた状態となつて腐敗し、つる全体が枯れてしまします。果実では、はじめ水浸状の病斑ができ、表面に粉状で灰白色のカビを生じ、やがて軟腐状になって腐敗します。

防除対策としては、被害発生初期に、ランマンフロアブル、ライメイフロアブル、リドミルゴールドMZ、ジマンダイセン水和剤を散布します。

③つる枯病は前年に発生していると被害は多発

茎、葉、果柄、果実に被害が発生します。はじめ、葉やつるに淡い褐色

水浸状の病変ができ、乾いて灰褐色の病斑ができます。苗では子葉の葉縁部などに周辺黄色で内部灰褐色の病斑ができます。湿度の高い条件下では病斑が拡大し、茎やつるを取り巻くようになり、病変部より上部が枯死します。幼果実が感染すると、淡褐色の病斑円形く不整形の病斑ができ、病斑部にはヤニをともない、果実の商品価値が低下します。

防除対策として、ジマンダイセン水和剤を発生初期に散布する。前年度に被害の発生した圃場では被害が多くなる傾向があるので、被害の発生する時期には早めにジマンダイセン水和剤を散布して、被害の蔓延を防止します。

④葉に粉状の病斑ができるうどんこ病

カボチャのつるが伸びて畑を覆い始める時期に発生が増加します。被害は、葉、茎、果実に見られ、はじめ葉では、白色で表面粉状の小さな病斑ができ、やがて病斑は拡大融合して葉を白く覆うようになります。

多発すると葉が黄化し、やがて褐変して枯死します。秋季以降には、病斑部に子のう殻を生じ、これが越冬して次年度の伝染源になります。

防除対策として、ガッテン乳剤、ベルクルート水和剤、スコア顆粒水和剤、モレスタン水和剤などを早めに散布します。

モザイク病



カボチャ疫病



(木曾 皓 原図)

つる枯病



(木曾 皓 原図)

うどんこ病

